

## 日本地質学会 2020 年度第 4 回理事会議事録

日時：2020 年 12 月 5 日（土）14:00～17:00【Web 会議形式】

出席役員 理事（45 名）：上松（渡邊）佐知子・芦 寿一郎・天野一男・磯崎行雄・ウォリス サイモン・内野隆之・大藤 茂・岡田 誠・緒方信一・尾上哲治・笠間友博・狩野彰宏・亀田 純・亀高正男・川端清司・北村有迅・清川昌一・小松原純子・小宮 剛・齋藤 眞・坂口有人・佐々木和彦・杉田律子・高嶋礼詩・竹下 徹・辻森 樹・内藤一樹・中澤 努・納谷友規・西 弘嗣・根本直樹・野田 篤・早坂康隆・平田大二・藤井正博・星 博幸・細矢卓志・保柳康一・松田達生・松田博貴・道林克禎・矢島 道子・矢部 淳・山口飛鳥 監事（2名）：岩部良子・山本正司

欠席役員 理事（4名）：安藤寿男・亀尾浩司・後藤和久・奈良正和・三田村宗樹

\* 成立要件：理事総数 49名の過半数 25名 本日の出席者44名で本理事会は成立。

\* 議決：出席者の過半数 23名

\* 開催にあたって、納谷理事および亀田理事を書記に指名した。

### 報告事項

#### 1. 執行理事会報告

- ・ 中澤常務より、2020年度第5回、6回執行理事会議事録より、主要な点の報告があった。
- ・ 会員動静の報告があった。2020年12月5日現在：3283名（前年比-168）。（緒方理事）
- ・ 名古屋大会代替企画（各担当者）：Webを使った表彰式、ショートコース、サイバーシンポジウムがいずれも盛況のうちに終了したとの報告があった（星理事）。ジュニアセッションの実施報告（高嶋理事）、キャリアビジョン誌の刊行（坂口理事）について報告があった。磯崎会長から、WEBの発信力を再認識している。ショートコースなど会員に有益なWEB 企画を今後も継続して行っていきたい旨コメントがあった。

#### 2. 理事・委員会・研究委員会等の報告

##### 1) 総務委員会（亀高理事）

- ・ 会員管理のクラウドシステム導入案、収支改善策、会員増加策を検討中であること、また他学会行事支援形態について概定されたことが報告された。主な報告内容は以下の通り。
  - （会員管理へのクラウドシステム導入案）新規システムの具体的な内容と、現状の会員管理システムと比較した保守管理費用などについて説明があった。
  - （収支改善策）いくつかの検討・試算を行った。事務所のコスト削減（移転による事務所コストへのメリットはなく、まずは書籍整理によるスペースのスリム化を図る）／印刷費の削減（地質学雑誌の電子化・オンデマンド化による700万円前後の削減）／対面・web会議の併用による削減（対面会議を減らすことにより50-80万円/年の削減）
  - （会員増加策）タスクフォース（TF）を設置して、早急に検討を進める。
  - （行事支援形態の概定）迅速かつ適切な行事支援が行えるように、判断・承諾の基準とその流れが確認された。また杉田理事より、国際会議や海外学協会の行事への協力のために、「共催」「後援」等の英語表記も検討してほしい旨の要望があった。
- ・ 書籍整理に関連して北村理事より地質学雑誌以外の学会出版物のアーカイブ化（地質学論集など）に

ついて要望があった。また会員増加策TF に対して、竹下理事から、会員の意見聴取や実態把握が重要であることから大規模アンケートの実施提案があった。

2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

最近の編集状況について報告があった。11月以降投稿数が減少傾向にある。

3) Island Arc編集委員会（狩野理事）

最近の編集状況について報告があった。11月以降投稿数が減少傾向にある。地質学雑誌とともに、積極的な投稿が呼びかけられた。

4) 各賞選考委員会（竹下理事）

応募状況について報告された（12/1締切）。学会賞1件、国際賞1件、小澤賞2件、柵山賞3件、研究奨励賞2件、論文賞 6件、小藤文次郎賞3件、学会表彰3件

5) 地質災害委員会（松田理事）

来年の1月14日に開催されるシンポジウム「東日本大震災からの十年とこれから-58学会、防災学術連携体の活動-」に地質学会として発表申込を行ったことが報告された。「東日本大震災後の古津波堆積物研究の現状と将来展望」（後藤和久；日本地質学会理事・東京大学）

6) 構造地質部会のオンライン例会開催報告（重松部会長）

10/7-9に、Zoomを用いたオンライン例会を開催した（参加者はのべ150名以上）。Google formによる参加登録、Zoomによる講演、チャット機能による質疑などが円滑に行われたこと、発表後の質疑の時間や場をどう設けるかといった課題点について報告があった。

7) 関東支部の表彰制度について（中澤常務理事）

支部規則（優秀発表賞の支部規則・顕彰規則）を改定することが報告された。来年4月の関東支部総会にて最終承認の上、施行される。

## 審議事項

1. 2020年度事業報告（案）（磯崎会長）

今年度事業報告案が示され、承認された。

2. 2021年度事業計画骨子（案）（磯崎会長）

次年度事業計画案が示され、承認された。

3. 「ジオパーク・コンソーシアム（仮称）」設立への協力について（天野理事）

地質学会として積極的に協力していくことが確認された。また西理事より、海外では、地質学の社会への普及という観点から学会が主導的に関与している例があり、日本地質学会も積極的に協力すべきとの意見がだされた。

4. 名誉会員推薦委員会委員の選出・承認（佐々木副会長）

階層別の委員案が示され、承認された。加えて、理事会代表委員として保柳康一理事を選出した。

5. 理事会規則第10条 執行理事会における「定足数および議決」の変更（佐々木副会長）

従来は、開催回数の多い執行理事会成立のため、委任を認める代わりに定足数を3分の2以上と厳しく設定していたが、WEB会議活用による出席率の確保により、定足の規則を理事会と揃えることがガバナンス上適切であるとの説明があり、変更案は原案の通り承認された。

変更箇所は以下の通り。

現行：（定足数および議決）

第10条 執行理事会は、構成員の3分の2の出席をもって開催が成立する。

2 執行理事会の議決に対して事前に書面ないし電磁的方法により、意思の表明あるいは委任状を提出した者は出席とみなす。

変更案：（定足数および議決） ※理事会規則を準用する。

第10条 執行理事会は、構成員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

2 執行理事会の議決は、議決に加わることができる執行理事の過半数が出席し、その過半数をもって決する。

6. 男女共同参画委員会規則および関連する理事会規則条文の変更（藤井理事・中澤常務）

委員会の名称変更（男女共同参画委員会→ジェンダー・ダイバーシティ委員会）とこれに関連した委員会規則，理事規則の変更案が示され，原案の通り承認された。

7. 表彰制度の見直しについて（学会運営規則および各賞選考規則の改正案）（磯崎会長）

表彰制度の改正案とこれに関連する運営規則の変更案が示され，大筋で承認された。年齢制限などの推薦対象が変更になる賞については，移行期における不利益が生じないように特例措置を検討する。これについて，齋藤理事より，移行期間の特例措置をどこかに明記しておくべきとの意見があった。また，改正案では従来の「功労賞」の対象が「学会表彰」に統合され，同じ「功労賞」という名称の別の賞が新設されることになるが，従来の「功労賞」と区別するために名称を工夫してはどうか（例えば「功績賞」など）といった意見があった。これについては，執行理事会で検討することとした。

8. 総会の日程について（中澤常務）

2021年度代議員総会は，6/12（土）開催予定。

9. その他

- ・ シニア会員制度について：磯崎会長より，シニア世代に向けた方策の検討を開始する旨のアナウンスがあった。コストのシミュレーションを含め，総務委員会で検討する。
- ・ 地質学雑誌のJ-STAGEでの公開時期について：山口理事より，若手研究者から早期公開（現状では掲載から3ヶ月後に公開）の要望があることが紹介された。

2020年12月21日

理事：議長 道林克禎

理事：副議長 山口飛鳥

代表理事：会長 磯崎行雄

（以下，出席理事氏名省略）